

2011年11月25日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### イタリア10年国債利回りは再び7%台乗せで欧州株は続落

欧州株式市場は軒並み続落しました。ドイツの11月のIfo企業景況感指数は予想に反して5ヵ月ぶりに改善したことから欧州株は上昇する場面もありました。しかし、市場の懸念は引き続き欧州債務問題の動向で、フィッチがポルトガルの格付けをBBB-からBB+へ引き下げ、さらなる格下げの可能性を示唆したことや、メルケル独首相がユーロ共同債構想について改めて反対姿勢を示したことなどが伝わると、欧州各国の国債利回りは上昇し、イタリア10年国債利回りは再び7%台に上昇しました。メルケル独首相、サルコジ仏大統領、モンティ伊首相による会談実施も取り立てて進展がなかったことも投資家の失望を誘い、欧州株もマイナスに転じました。米国は感謝祭の休日のため株式、債券、商品いずれの市場も休場でした。

### 市場参加者少なく方向感に欠ける展開も、下値を拾う動きも見られて日本株は底堅い展開

国内株は小安く始まった後はすぐにマイナス幅を縮小し、TOPIXは早々にプラスに転じました。その後は薄商いの中、8,150円を挟んで方向感の乏しい展開でした。ただし、日経平均株価は連日で年初来安値を更新し、前日までの4日間で▲312円下落したこともあり、8,100円台前半の水準では押し目買いと見られる動きも見られ、全体的に底堅い展開でした。TOPIXは小幅も半数以上の銘柄が下げしており、全体的に買いが優勢であったわけではありませんでしたが、足元で下落が目立っていた自動車や鉄鋼、保険など大型株の一角に買い戻しが見られ、指数全体の押し上げに寄与しました。大引け前には先物主導で下げ幅を縮める場面もあり、結局、日経平均株価は前日比▲5円安の8,160円で引けました。今晚の米国市場は株、債券、商品のいずれも短縮取引となっており、海外投資家の動きは鈍く、東証一部売買代金は9,018億円と9営業日連続の1兆円割れとなりました。日経平均株価は連日の年初来安値更新ですが、TOPIXはわずかながらも反発して引けており、アジア株の下げが目立つ中、前日とは反対に日本株は相対的に良好なパフォーマンスでした。

来週にかけてベルギー、フランス、イタリア等ユーロ圏各国の国債入札が多く予定されています。今晚もイタリア国債入札が予定されていますが、同国10年国債利回りは高止まりしているほか、ドイツ国債入札札割れ後というタイミングもあり、結果に注目が集まっています。欧州市場では、ECBが国債買い入れで欧州各国利回りの上昇抑制に寄与しているほか、ECBの欧州金融機関への貸し出しも足元で増加傾向にあるなど、ECB頼みの状況が続いています。欧州債務問題に対する抜本策が見出せない中、投資家の先行き不透明感募る一方で、投資家の不安心理が各国国債利回りを押し上げ、資金調達懸念から再び金利は上昇するという悪循環に陥っています。この流れを断ち切るためにはユーロ圏救済スキームの構築が早急に求められますが、各国首脳の間調整は難航が伝えられ、なかなか進展が見られません。このような状況が続く限り、投資家の欧州債務問題への不安は解消されず、来週も各国の入札動向に一喜一憂しながらの不安定な展開が続くものと思われます。引き続き海外動向次第となりますが、TOPIXのPBRは0.9倍まで低下し、下値を拾う動きも散見されることから、これまで売られてきた大型株中心に相場を下支えすることも期待されます。